

名刺交換をさせて頂いた皆様にお届けしています。

# つくし会通信

発行：一般社団法人高齢期サポートつくし会 第7号 2016年8月

## つくし会からのメッセージ

一周年記念号です。昨年8月に創刊してもう一年という心境と、やっと一年という心境とが混在しています。記事を書くことは結構大変ですが、たまに励ましの言葉を頂くこともあって、続けて来れました。

どう背伸びしても駄文、雑文、自己満足の域を出ることはありませんが、今後もミニコミ紙ならではの紙面づくりを楽しんでやっていきたいと思っています。引き続きご愛読？よろしくお願い致します。

## 一人暮らしの高齢者に連帯保証を求めらるって・・・

一人暮らしの、あるいは夫婦のみ世帯の高齢者が病院、介護施設やサ高住等に入院、入所する際に求められる「連帯保証」というものに、ハードルの高さを感じている方は多いと思います。また、そうした状況になったらどうしたらいいのかと、人知れず思い悩んでいる高齢者の方も沢山いらっしゃると思いますが、こうした高齢者に対し連帯保証を求めるといふ現行の取扱い、今後とも変わることのない固定化した制度なのでしょうか。



「連帯保証」は、ビジネス世界では勿論のこと、私達の日常生活レベルでも意識の中に溶け込んでいるためでしょうか「連帯保証人が必要です。」と言われれば、当然の如くに了解して、人それぞれ何か工夫して対応しているのが実情と思いますが、あまりに貸し手優位が過ぎるのではないかと思うのです。誰しも年齢と共に家族や友人との距離は自然のうちに遠のき、頼みの綱は地域のお隣さんという状況の中で、連帯保証人をお願い出来る人を見つけるのは、大多数の高齢者にとって至難の業でしょう。こうした状況の反映として、連帯保証に対応出来ず、途方に暮れる高齢者は潜在的な数も含めれば相当数おられると思います。ビジネス感覚としては常識的なのかも知れませんが、一人暮らしや夫婦のみ世帯の多い今日の高齢社会でそれを求めるのは、居直る訳ではないけれど、無理なのではないかと感ずるのです。世の中、こんなことでいいのだろうか、というのが率直な思いです。

現状では、民間の保証会社を利用することが最後の拠り所かと思いますが、この問題を、今年5月24日放映のNHK クローズアップ現代が取り上げ、全国ベースで展開していた保証会社が、今年に入り倒産したことに触れ、被害者の不安な様子を紹介する中で、次の説明がありました。

- ・現時点で、保証会社は全国ベースで100前後あること。
- ・現時点で、保証会社の監督官庁は明確でないこと。

民間の保証会社が、今後、より透明性を高め、健全なサービス提供の担い手として成長することは、問題対応の方向の一つではあるのかも知れませんが、他方において、病院や施設等が引き続き連帯保証を必要とし、今後も社会的に承認された制度として継続されて行くのであれば、その「高いハードル」は保証会社の「高い保証料」に姿、形を変えるだけであって、連帯保証の実質は依然として高齢者の安心を脅かし続けるだけです。



この問題を考える材料にしたい事例が一つあります。札幌大附属病院では、かつては入院者に連帯保証人を求めていたが、現在は「連帯」でない「保証人」に切り替えていることです。保証の役割を担う人にとって「連帯保証」は負担が大き過ぎるとの議論があり、取扱いを切り替えたとのこと。法律的な違いの説明は省略しますが、保証の役割を担う人の負担軽減は「連帯保証」とは比較にならない

い程大なものがあります。皆で知恵を出し合えば、もっと色々な改善案が必ず出てくると思います。

多分、こうした考えは、現場の実情を知らない素人目線と関係方面から聞こえてきそうですが、時に、素人目線が改善、改良の引き金になる事もあるのです。人それぞれ、立場の違い等によって意見は様々だろうけれど、この問題は、一度は皆で、ゼロベースで考えてみる必要があると思っています。

今若い人、今健康な人もいずれは高齢期を迎え、この問題に当事者として直面する、あるいは隣り合わせることになる、言ってみれば全ての人にとって明日は我が身の話なのだから。

## デイサービスセンターいきいき栄（東区）が認知症カフェをオープン（6月18日）



職場で何か新しい事に取り組もうとすると、思わぬ障害、難題が次々に発生し「新しい仕事に取り組むって、こんなに大変??!!」という経験を、多くの皆さん、大なり小なり持っていると思います。

いきいき栄の管理者の水野百合香さんが、一念発起、認知症カフェの開設に取り組む事オープンにこぎつけました。

### (取り組もうと思った動機は何ですか)

認知症を身近に理解して頂く、きっかけの場として。症状でお心を痛めない様、お役に立てる事は無いのか？

### (一番大変だった事は何ですか)

皆様に来て頂けるか？を一番心配し、苦勞しました。町内会の回覧板など地域に馴染んだ周知を行いました。

### (今の気持ちはどんなですか)

沢山の方に来て頂き、安堵！今後も皆さんに親しまれ良き集いの場としてお使い頂ける様に努めて参ります。

### (これから取り組む人達へのアドバイスは)

『人が為は己が為』良い事は必ず相手に伝わります。志を強く、突き進んでみて下さい。

デイサービスセンターいきいき栄：札幌市東区北4 2条東5丁目3-1 TEL 011-742-7000

## (投稿) 嬉シートに取り組んでいます うれ 社会福祉協議会手稲相談センター 所長 佐々木 香

我々介護業界では、事例検討会やヒヤリハットの共有などを通して業務の改善を図っておりますが、事例検討会では困難なケースと向き合い、ヒヤリハットでは失敗事例を振り返り、その背景には重々しいものが付きまといがちなのも事実です。

この業界では重々しいものしか共有しないのかと思っていたところ、我が社では“嬉シート”という取り組みを開始しました。“嬉シート”とは、医療業界で行われる症例発表の簡易版のイメージで、日ごろの介護活動の中でうまくいったことや嬉しかったことを報告する書式の事です。

開始当初は鈍かった提出も、徐々に「文句しか言わなかった利用者さんがありがたうと言ってくれた」「認知症で反応の乏しかった利用さんでしたが、私が口ずさんだ歌に合わせて唄い始めてから笑顔が多くみられるようになりました」などの報告が次々なされるようになりました。

読んでいるところの気持ちも本当にほっこりしますし、役立つ裏技も垣間見られます。隔月の介護雑誌にも連載されるまでになった“嬉シート”。皆様もトライしてみたいかがでしょうか。

一般社団法人 高齢期サポートつくし会	検 索	(文責) 代表理事 富 舂 和 夫
		(編集) 特定行政書士 松 岡 京 子
住所：〒006-0851 札幌市手稲区星置1条1丁目9番8号		
TEL：011-215-6972 FAX：011-215-6973		
E-mail：k-tmms@f7.dion.ne.jp つくし会通信は隔月発行です。		

お願い：今後この「つくし会通信」の送付をご希望されない場合は、恐縮ですが TEL、FAX、E-mail いずれの方法でも結構ですのでご連絡ください。